

【鶴見区】令和元年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和元年9月4日（水）午前10時～午前12時15分
場 所	鶴見区役所6階 9号会議室
出席者	<p>【座 長】井上さくら議員</p> <p>【議 員：6名】渡邊忠則議員、古谷靖彦議員、尾崎太議員、 有村俊彦議員、東みちよ議員、山田一誠議員</p> <p>【鶴見区：29名】森健二区長、松本智副区長、花内洋福祉保健センター長、 菊池孝福祉保健センター担当部長、 山川博子福祉保健センター医務担当部長、 山本尚樹鶴見土木事務所長、山田裕之鶴見消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成30年度個性ある区づくり推進費 決算について 2 平成30年度個性ある区づくり推進費 自主企画事業費等決算について 3 令和元年度個性ある区づくり推進費 自主企画事業費等執行状況について 4 令和2年度 鶴見区予算編成について 5 都市計画マスタープラン鶴見区プラン改定案について
発言の 要 旨	<p>【議題1～4】</p> <p>有村 議員：区民利用施設照明設備LED化事業があるが、これは地区センターだけか。鶴見区の地区センターは、どの程度進んでいるのか。</p> <p>岩田 地域振興課長：横浜市の公共建築物について、順次進めている。鶴見区では、温暖化対策統括本部で行っている温暖化対策プラス事業の中で、地区センターから順次行っている。今年度も、地区センターで行う予定で調整している。</p> <p>有村 議員：ケアプラザはどうか。</p> <p>市川 福祉保健課長：ケアプラザは、まだ対応していない。今後、温暖化対策本部と調整していきたい。</p> <p>有村 議員：生活困窮者支援について、フードバンクやフードドライブなどとの関わりはどのようになっているのか。</p> <p>峰 資源化推進担当課長：フードドライブについては、区のイベントなど</p>

を利用して区民の方に呼びかけている。集めたものは、区社会福祉協議会で、食べ物に困っているという相談を受けた際に2、3日分をお渡しするといった活動の中で、利用いただいている。

有村 議員：区によって違うと思うが、生活困窮者が区役所に相談に行くと、社会福祉協議会を紹介され、そこから食糧が3日後くらいに送られてくるような仕組みになっていると聞いた。その時点で食糧に困っているのに3日たないと届かないと。区役所に食糧をストックして、その場の判断で渡せるような仕組みができないかという声もあるが、どうか。

伊藤 生活支援課長：鶴見区でも、区民から生活困窮の相談を受けて社会福祉協議会を紹介することがある。ただし、生活保護受給者の方は原則としてフードバンクは利用しないということになっている。区によっては1か月分をまとめてダンボールでということもあるが、とりあえず3日分くらいの食糧を社会福祉協議会でお渡しすることはあると聞いているが、区役所で食糧をストックしてお渡しすることは、多分どこの区もやっていないと思われる。

菊池 福祉保健センター担当部長：市としてセブン-イレブンと協定を結び、食品の提供を受けている。鶴見区社会福祉協議会はこの在庫を置く場所があるため、相談から3日後にお渡しするということはない。

有村 議員：保育園の園庭開放について、鶴見区の市立保育園4園では場所が偏っているのではないかと思うが、今後さらに場所を確保していく考えはあるか。

御小柴 こども家庭支援課長：園庭開放という形ではないが、例えば地区センターのプレイルーム等での子育て支援事業であるとか、また、「つるみ・ふらっとるーむ」という地域の子育てサロンも50か所くらいあるので、子ども達が遊べる場所としてPRしていきたい。

有村 議員：「千客万来つるみ」プロモーション事業の、多言語「鶴見ミニ観光マップ」は、どのように配布したのか。

飯島 区政推進課長：「鶴見ミニ観光マップ」は、鶴見駅周辺で歩ける範囲というのをコンセプトに作成しており、区内のホテルのご協力により配架していただいている。

有村 議員：今後、クルーズ船など鶴見区に関心を持ってもらうようなも

のも視野に入れているか、

飯島 区政推進課長：駅周辺だけではなく、外国人観光客向けに区内を案内するものとしては、「ことりっぷ」の英語版がある。先日の大黒ふ頭客船ターミナルのオープンイベントでも配布しており、可能であれば今後言語も増やしていきたい。

有村 議員：多文化のまち・つるみ推進事業での、メール・フェイスブックの生活情報配信の登録者数、アクセス数はどのようになっているか。

飯島 区政推進課長：メールの登録者数は200人ちょっととなっている。フェイスブックは昨年6月から始めているが、見ていただいた数、リーチ数は、防災の関係で600ほどとなっている。時代はメールマガジンよりもフェイスブックとなっていると思われるので、そういった登録者の同行も見ながら考えていきたい。

有村 議員：生活情報ということは、住んでいる方が対象か。

飯島 区政推進課長：フェイスブックを始めた当初は、メールマガジンのように例えば公営住宅の情報などの生活情報だったが、鶴見に来る観光客を念頭に置いて、イベントや観光情報的なものも適宜取り入れていきたい。

山田 議員：児童虐待予防の啓発用リーフレットはわかりやすい内容でよくできている。2歳と3歳の発達段階に分けて作成するアイデアなど、どのような方向性で作成されたのか。

御小柴 こども家庭支援課長：もともと、怒鳴らない子育てをテーマに講座・教室を展開してきたが、参加が関心の高い方などに限られてしまうという課題があった。そのため、今は困っていなくても、いつか必要なときに見ていただけるようにと、パンフレット配布に切り替えていった。2歳・3歳というのは、発達段階としては自我が出てイヤイヤが始まる節目であり、区役所としては1歳6か月健診から3歳児健診まで間が空く期間であるため、臨床心理士の先生方とも相談し、この時期にスポットを当てて作成した。

山田 議員：パンフレットは、訪問時などに使うのか。

御小柴 こども家庭支援課長：こんにちは赤ちゃん訪問時のほか、受診率の高い乳幼児健診の機会に、保護者の方にお渡ししている。

山田 議員：保護者の反応などはどうか。

御小柴 こども家庭支援課長：ご覧いただいた保護者からは、「拒否をするのではなく、まず受け入れることが大事なんです」というお声などをいただいている。

山田 議員：専門家相談について、弁護士相談というとなかなかハードルが高いイメージがあると思うが、こういう相談窓口があるという案内はどのように行っているのか。

御小柴 こども家庭支援課長：この日に弁護士相談をやっていますという形でのお知らせはしていない。女性福祉相談を区役所で実施しており、その中で例えば親権について法的な専門的なことを聞きたいという方などに、こういう相談を実施していますがいかがですかというように案内している。

山田 議員：対応するのは、どのような弁護士か。

御小柴 こども家庭支援課長：離婚や親権の問題に詳しい方をお願いしている。

東 議員：保育士が不足している中で、区役所が保育士確保推進の試みを進めるのは良いことだと思うが、就職実績が1名というのは残念でもある。今後については、どのように考えるか。

岩田 学校連携・こども担当課長：保育現場から、保育士の確保は大変厳しい状況であると聞いており、区としても課題だと認識している。保育士確保推進モデル事業については、協定を結んでいる保育士養成機関である連携先大学の学生支援課に募集時期等について相談するなど、多くの学生に区内の保育現場を体験していただけるよう進めている。また、こども青少年局で行う就職説明会などの機会を活用し区内保育所をあらためてPRさせていただくなど、様々な手立てを検討していきたい。

東 議員：この事業は学生が対象だが、シングルマザーなど就職の選択肢が狭い方たちにもアピールしたりするのはどうか。

岩田 学校連携・こども担当課長：区だけの取組としては難しいが、こども青少年局と連携し保育士不足に対応していきたい。

東 議員：鶴見区は虐待の通報件数が増えているが、児童相談所は市内4か所で、鶴見区にはない。ではどうしているかというところ、乳幼児健診や生活保護受給などの際に話を聞くなど、職員の熱意に頼っている部分があると思う。例えば専門家を常駐させるなど、持続可能なやり方で虐待

件数の減少につながればと思うが、どうか。

御小柴 こども家庭支援課長：通報件数が増える中で職員が疲弊するのではないかというご心配もいただき、おかげさまで、保健師や社会福祉職の増員などによる体制の強化をさせていただいている。また、通報が増えてきた背景としては、昨年度から虐待対応調整専任の係長が鶴見区に配置されたことで、学校・保育園との顔の見える関係づくり、虐待通報がしやすくなる関係づくりが進んできたという結果でもあると考えている。今までは通報した方がいいのか迷っていた方々が、区役所にだったらちょっと声をかけてみようと思うようになった結果が、鶴見区の通報件数の増にもつながったと考えている。児童相談所につなぐケース、区役所ならではの関わり方のケースなど、一件一件に丁寧に対応しながら、最終的に通報が減るように取り組みたい。

東 議員：鶴見区サマーフェスティバルの花火大会の中止について、安全性確保のためではあるが、地元の方にとっては楽しみにしていることでもあるので、ぜひ前向きに検討してほしい、

岩田 地域振興課長：これまで30数回続いた花火大会であり、地元の強い思いは区役所も理解している。一方、今年度も他都市で花火大会の事故が起きており、遡れば、2003年の明石市の花火大会では11人の死者、約250名の負傷者がでたということもあり、事前に安全性の確保をしておく必要がある。

東 議員：鶴見区では過去に事故はあったのか。

岩田 地域振興課長：幸い、そういう事故はまだ起きていない。ただし、昨年度の状況をみると、将棋倒しのような事故が起きてもおかしくはないと感じた。

東 議員：安全性を配慮したうえで検討いただきたい。

古谷 議員：児童虐待の通報に係る対応件数について、昨年度は鶴見区が18区でトップの件数だったが、今年度はどうか。

御小柴 こども家庭支援課長：昨年度とほぼ同数、もしくは若干少ないと、現場の方では感じているが、流動的なものであり、正直なところは何ともいえない。通報の内容としては、傷やアザがあるなど即、児童相談所と関わるケース、今すぐどうという訳ではないが、ちょっと気になる子どもがいるといった未然防止に近いようなケースなどがある。

古谷 議員：マンパワーが不足していると考えますが、対応にはマンパワーが必要なので、区長にもぜひ改めて認識していただきたい

古谷 議員：地域での防災訓練については、参加率をアップさせるような手立てが必要だと思うが、そのあたりの目標や方針はあるか。

今仁 総務課長：地域防災拠点についての考え方は、阪神淡路大震災のときに行政の手当てがなかなか行き届かないというところからはじまっている。地域防災拠点での訓練は、行政の手当てがない中で地域の方々が自主的にどうやっていけるかということ、日常から支援していくためのものであり、参加率が低いことは問題だと考えている。ただ、地域防災拠点にもキャパシティがあり、自宅が無事であれば必ずしも拠点に参集する必要はないため、その辺りも含め、拠点の目的などについてはあらためて周知方法などを考えていきたい。全ての地域の方に集まっていたく趣旨ではないということも理解しながら、訓練に参加していただきたいと考えている。

古谷 議員：拠点の役割や、何のために、どういう状態の時に行くのかということ、周知するためにも、訓練の参加は多い方がよい。ぜひ、目標を持ってやってほしい。

古谷 議員：災害医療訓練を実施しているが、災害医療コーディネーターの配置はあるか。

市川 福祉保健課長：コーディネーターはいないが、災害アドバイザーはいる。医師会の方に2名お願いしている。

古谷 議員：災害アドバイザーの処遇はどうなっているか。

市川 福祉保健課長：被服や報償金はない。

古谷 議員：市の災害アドバイザーはそういう処遇をされているので、区でも適切な処遇をお願いしたい。

古谷 委員：スクールゾーン対策について、危険なブロック塀に関し、改修工事のための補助制度がなかなか活用されていないと聞いている。スクールゾーンの安全性が保たれていないというのは危険な状況だと思うが、どうか。

岩田 地域振興課長：ブロック塀については、教育委員会や建築局において対応している。

古谷 議員：危険なブロック塀があるのであれば、スクールゾーンそのものを危ないところを通らない道筋にするなど、安全性を高めることは必要だと考える。教育委員会等々がやることだとは思いますが、区の方も当然関係していることであり、そののところがどうするのかということは、ぜひ局にも言っていたきたい。

森 区長：市としては教育委員会と建築局と学校の方で検討しているが、区として全く無関心であるわけではなく、問題提起としては伝えていく。

古谷 議員：災害時要援護者支援の仕組みづくりが進んでいるが、名簿登録率は、どのようになっているのか。

坪山 高齢・障害支援課長：災害時要援護者の総数が9258名、うち名簿に登録されている方が6561名で、71パーセントの人が搭載されている。

古谷 議員：100パーセントの自治会で取組がなされているというが、実際の発災時に、本当に要援護者の方が逃げられる体制になっているかということは、町内会まかせということではなく支援をお願いしたい。

坪山 高齢・障害支援課長：各町内会で名簿を使った取組が行われており、例えば隣の町内会ではこういう活動や工夫をしているなど、良い事例を取り上げ、情報提供している。

古谷 議員：国でも、必ずということではないが個別の対策を作っていくことが求められているので、手立てを進められたい。

古谷 議員：鶴見駅東口のムクドリの対策について、いま防除のための音を流しているが、効果はどうか。

石井 土木事務所副所長：効果かどうかははっきりしないが、このところいなくなっている。

古谷 議員：音を出しても、音に慣れて結局帰ってきてしまうという事例を多く聞いている。他区では鷹匠の鷹を利用するなど様々な対策を検討しているので、何が有効なのかを検証してほしい。

古谷 議員：「千客万来つるみ」ということで、この夏もたくさんの町内会で夏祭りなどがあった。特に仲通では、沖縄の県人会が中心になって沖縄相撲の大会やエイサーの祭りなど、非常に賑やかにやられていて、すごいエネルギーだとあらためて感じた。この祭りについて仲通の範囲で

しかポスターなどを見かけないと思うが、あれだけのお祭りなのだから、もっと観光資源として宣伝すべきと思うが、どうか。

飯島 区政推進課長：「ことりっぷ」「鶴見みどころ90」など鶴見区のPRについてはいろいろな機会を通じて発信しており、ご指摘の件も鶴見の地域、地区の財産であると考えている。一方で、千客万来として大きく打ち出すことで、地域が大事にしていたイベントなどに外の方が多く押し寄せるということもあり、観光的な要素としてのPRを地域の方が望んでいるかいないか、というところはバランスが必要だと考える。様々な資源を掘り起こして区全体を活性化していきたいという思いと、バランスを見極めながらPRを考えていきたい。

古谷 議員：鶴見の魅力をアップするという意味でも、ぜひお願いしたい。

尾崎 議員：中高年の引きこもりが、いま社会的な課題となっているが、高齢者の見守り時などにそういった引きこもりに該当する事例があった場合、区役所ではどういった対応をしているのか。

市川 福祉保健課長：高齢者の見守りに関しては、対象がひとり暮らし高齢者ということもあり、あまり該当する事例はない。そういう事例があった場合には、民生委員がケアプラザや区役所の方に連絡をしてくることになる。

坪山 高齢・障害支援課長：中高年の引きこもりについては、8050問題として親御さんからの相談が増えており、昨年では60件近い相談が区役所に来た。その中で、医療につなげるもの、生活困窮者の自立支援につなげるもの、継続相談とするもの、居場所を紹介するものなど、関係機関との連携強化を図り、相談者への支援を広げていくことを進めている。

尾崎 議員：市役所で局と話をすると、現場の実態が伝わっていないので、参考になるような話があれば、ぜひ教えてほしい。

尾崎 議員：地域の課題解決サポート事業について、どのような課題が上がってくるのか。

飯島 区政推進課長：基本的には、年度当初予算で地域からいただいている課題を踏まえて予算をつくる。年度に入って予算執行する中で、区として突発的に対応しなければいけないものがでてくるため、市の予算でいうと予備費的な観点で、地域の課題の早急な解決のために、枠として一定の額を緊急対応のために確保している。昨年度の執行としては、案

内板の点検調査や緊急補修などに対応している。

尾崎 議員：ハザードマップの見える化について、何か考えや、以前からの変化などあれば聞きたい。

今仁 総務課長：「まるごとまちごとハザードマップ」を既に設置しているところだが、かなり年数が経っており、また、ハザードマップのサインなどについては、国が「まるごとまちごとハザードマップ実施の手引き」の中で定めているため、順次、国の手引きに沿った形で更新を進めていく。

尾崎 議員：豪雨などでハザードマップの想定が正しかった、ハザードマップどおりの浸水がきたという話も聞いている。総務局がやる話かもしれないが、認識を高めるためにそういった形の啓発も進めてほしい。

尾崎 議員：来年1月の認知症体験講座は、バーチャルリアリティを利用しているとのことだが、どのようなものか。

坪山 高齢・障害支援課長：ゴーグル、ヘッドホンを装着すると認知症の方の中核症状の体験ができるという講座で、例えば足元を見るとまるでビルの上に立っている感覚になったり、変な音がいろいろ聞こえたりといったことを、自分で実際に見たり聞いたり感じたりできる。

尾崎 議員：鶴見区独自の取組か。

坪山 高齢・障害支援課長：バーチャルリアリティの講座は、横浜市では鶴見区が初めて取り入れる。民間企業でも人気が出てきており、これからどんどん広がっていくと思われる。

渡邊 議員：多文化共生の関係で、国際局が新たに相談センターをつくったそうだが。

飯島 区政推進課長：国際局で、横浜市国際交流協会の中に多文化共生総合相談センターを設置したということは聞いている。

渡邊 議員：鶴見区としても案内をした方がよいのではないかと思う。

渡邊 議員：保育所の多文化共生事業について、鶴見区では外国籍を持つ園児の比率はどうなっているか。

岩田 学校連携・こども担当課長：鶴見区内の市立保育園4園の平成31年4月1日現在の在園児数419名のうち、77名、約18パーセントが外国籍を持つ園児となっている。

渡邊議員：18パーセントというしっかりとした対応が必要だと思うが、鶴見区がトップランナーとなって進めてほしい。

渡邊 議員：災害が夜間・土日などに起こった場合の対応はしているのか。
今仁 総務課長：輪番制で体制を敷いている。防災対策本部である総務課で災害の状況を見つつ、輪番の職員に招集をかける。避難所等を開設する場合も誰がどこに行くかは決まっています、招集をかける体制となっている。

松本 副区長：ご存じのとおり震度5強以上の地震が発生した場合には、本部に限らず全職員が参集する。鶴見区にも区内在住職員がいるので、区本部も早急に立ち上げて迅速な対応をしたいと考える。

渡邊 議員：防災に関してはそのような輪番制となると思うが、いざというときは交通機関もどうなるかわからないので、想定に入れておいてほしい。

渡邊 議員：大黒ふ頭客船ターミナルの話があったが、客船クイーン・エリザベスが入港し、イベントには鶴見区も参加したと思うが、そこで出た課題や今後について聞きたい。

飯島 区政推進課長：市営バス便に象徴されるとおり、横浜駅や鶴見駅からのアクセスが一番大きな課題と考える。来年度も豪華客船の寄港が多数予定されているため、港湾局や文化観光局など市全体の動きとうまく連携をとり、賑わいの創出と区内経済の活性化を進めたい。

渡邊 議員：鶴見駅からのシャトルバスや、乗船客が鶴見区内を素通りしないような仕掛けについて、課題として進めてほしい。

渡邊 議員：国際交流ラウンジにW i - F i が設置されているが、これは観光情報拠点として機能させるものか、それとも、在住の方たちの利用が主か。

岩田 地域振興課長：国際交流ラウンジのW i - F i は、在住の方の日本語学習支援のボランティア等で非常に好評いただいている。国際交流ラウンジ自体が観光案内的な面が弱い部分があるので、そういう広報やPRにも力を入れていきたいと考えており、区提案反映制度を使って国際局とも調整している。

渡邊 議員：放課後学童クラブの面積・耐震基準について、区内では5か所くらい影響があると聞いているが、進捗はどうか。

岩田 学校連携・こども担当課長：現在、3か所が基準適合未完了だが、新築移転や耐震基準を確認した建物への移転が計画されており、年内か、遅くとも今年度内にはすべて完了する予定である。

渡邊 議員：災害時の防災計画について、要援護者施設の避難確保計画の作成は進んでいるのか。

藤本 危機管理・地域防災担当係長：3年前から継続して、避難確保計画の作成と提出を要援護者施設にお願いしている。毎年、危機管理室が要援護者施設に対して作成の説明会を開催しており、また、鶴見区でも各施設からの相談に応じ、作成を手引きしている。

井上 議員：多文化共生について、こんにちは赤ちゃん訪問の際のメッセージなどで多言語化を進められないか。

御小柴 こども家庭支援課長：こんにちは赤ちゃん訪問でお配りするものの多言語化は十分にはできていないが、区で独自に作っているマップやパンフレットの外国語訳など、お持ちできるものはお届けしている。また、玄関先等での短時間訪問となるため、言葉の方が難しいようだとの情報があれば、地区担当の保健師が小型の翻訳機等を持参して訪問するなど、必要な情報を提供できるよう対応している。

井上 議員：そのタイミングを大事にすると、その後のつながりが違ってくると思うので、ぜひ進めてほしい。

井上 議員：ネズミの防除支援について、個別に捕獲器の貸出しをしているが、一軒だけでなく地区的に一斉に実施するなど、ある程度行政の方でリードしていく方がよいのではないか。

相田 生活衛生課長：現在、相談を受けて、必要な場合には捕獲器の貸出しをしている。昨年度は、ネズミの相談は157件で、捕獲器貸出しは24件あった。貸出しのあった地域は区内20か所で偏りは発見できなかったが、偏りがあれば該当する地区の町会の方々に対策や対応の仕方をお話ししに行く準備はしている。

井上議員：ぜひ、地域全体での取組を進めてほしい。

井上 議員：寄り添い型生活支援事業の「つるみ元気塾」について、登録者数が若干少なくなっているようだが、どのような状況か。

岩田 学校連携・こども担当課長：運営法人が30年度から変わったこともあり、円滑に運営を引き継いでいるが、スタート時は若干数字がマイナスとなった。現在、生活支援課など課題を抱える子への支援を行っている部署と連携し、3人が利用調整中となっている。当事業の周知について、例えば小中学校の児童支援・生徒指導専任教諭に事業を説明・周知し積極的にご活用いただくなど、関係機関と連携し、日常生活や学習の支援を進めていきたいと考えている。

井上 議員：地域と学校の連携による非常に大事な事業だと思うので、運営法人が変わってもネットワークをしっかりとつなげていただきたい。

【議題5】

有村 議員：このプランは誰が利用するという想定をしているのか。

飯島 区政推進課長：横浜市全体でプランを作っており、区プランでは、鶴見区として区の将来像について、区民やまちづくりを進めていただく関係者間の共通の手がかりというような観点で作っている。

有村 議員：自分の家の周辺のことはわかっても、ちょっと離れたところは全然わからなかったりするので、ガイド本みたいに何ページの地図Aの何番というようになっていると分かりやすかったかと思う。漕艇場の写真も掲載されているが、マップ上はどこにも存在しないが、その辺も整合をとればよかったのではないかな。また、マップを縮小したときに字も小さくなってしまい、高齢者の方に読みにくくなっているので、何らかの工夫を今から多少でもできたらよいと思うが、どうか。

飯島 区政推進課長：今後、確定版もあるので、可能な範囲で業者とも相談したい。区プランを区民の皆さまのものにしてほしいということは策定当初から考えており、冊子の第5章は、例えば駒岡だったり生麦だったりといったエリア別の方針をまとめ、より親近感の持てるつくりにさせていただいた。また、作成にあたっては、各地区連合をまわり意見を聞くとともに、素案の説明会などを実施し、より身近に感じられるような計画づくりを進めてきており、引き続きそういう観点で周知も考えていきたい。

有村 議員：小中学生の絵が載せられているが、どういう経緯か。

飯島 区政推進課長：平成29年度の区制90周年のイベントのひとつとして、

20年後の鶴見をテーマとしたポスターコンテストを実施した。ちょうど鶴見区のマスタープランの改定の時期であり、まちづくりというもの身近に感じてもらえるのではないかと、こういう夢みtainなものもアイデアとしてあってもよいのではないかとという意味で、関係者の方々の意見を聞き、掲載した。

有村 議員：鶴見区らしい将来が見えるような形で描いており、子どもたちが大人になった時にこのように見えるような形で残ってるというのは、素晴らしいことだと思う。

渡邊 議員：都市計画法に基づいた作成としては2回目ということで、都市計画マスタープランとして、よりしっかりとしたものになったと思う。その中での鶴見区マスタープランということであり、様々な課題も出たということだが、しっかり進めていってほしい。また、相反するかもしれないが、地域というのは人口もニーズも様々に変わっていくので、行政にはビジョンを持ちながらも柔軟に対応してほしい。

古谷 議員：南北の移動環境の改善は鶴見区がずっと抱える課題だが、その改善として鶴見川沿いの河川道路を活用すべきだと考えるが、検討されたことはあるか。

飯島 区政推進課長：鶴見川沿いの道路については、京浜河川事務所との調整もあるので、横浜市鶴見区の中だけでは議論は進まないと考える。あくまでも横浜市としての都市計画の考え方に基づいて道路が造られており、区としては基本的に道路局の方針を踏まえながら問題の改善を進めていきたい。

古谷 議員：国の管理だからということではなく、ぜひ柔軟に考えていただきたい。

東 議員：このプランの軸となるものは何かとなったとき、将来都市像・まちづくりの目標のページにある「活力があり 安心して住める 水辺があるまち」というキャッチコピーが、それに当たるかと思う。住民や行政でまちづくりを進めていく中で軸となるものとして、この言葉がいいのか、この言葉でいくなら表紙に出すくらい明確にしてもよいのではないかと考える。そうすれば、例えば水辺がある町というのは鶴見ならではのけど、では果たして水辺はどれだけ活用されているかといったことを考えるきっかけにもなると思うので、こういう言葉はもう少し大事に考えてはどうか。

飯島 区政推進課長：冊子の中でどこに置くかという問題もあるかとは思

	<p>うが、素案を作る段階から何回も説明会を重ね、広よこの特別号なども使いながら、どなたでも来られる形で周知をしてきている。「活力があり 安心して住める 水辺があるまち」の意味や考え方、目指すところについても丁寧に説明をしてきており、その中でこれについて特に大きな意見はもらっていない。逆に言えば、丘・川・海という三つのエリアがあるという鶴見の特色については、一定の理解がされ、共通認識として持ってもらっているのではないかと考える。</p> <p>東 議員：鶴見区外の方と話すとき、鶴見区の地域像などがぼんやりとしか伝わっていない。鶴見区の魅力を伝えるという意味でも、将来像などもっと周知してほしい。</p> <p>飯島 区政推進課長：個性ある区づくり推進費の自主企画事業として「千客万来つるみ」プロモーション事業というものがある。その中で、ご意見も踏まえて区のPRのしかた等も考えていきたい。</p> <p>井上 議員：市民意見募集の結果、ご意見が739件寄せられているが、このうち今後の参考にさせていただくものが701件と一番多い。その他いただいたご意見は、どのようなものが多かったか。</p> <p>飯島 区政推進課長：一番多かったのは生見尾踏切に関する意見で、踏切閉鎖への反対や、既存跨線橋へのエレベーターの設置などについていただいている。そのほか、岸谷生麦線があるなら岸谷線はいらないのではないかとといった道路関係の意見、岸谷公園プールを引き続き存続させてほしいといった意見が、トップスリーとなっている。</p> <p>井上 議員：反映できないまでも、関係機関に情報共有するものなどはなかったのか。</p> <p>飯島 区政推進課長：ここでいう関係機関は横浜市以外を基本的に想定している。例えば道路局や、プールでいえば環境創造局などは、言葉の定義としては関係機関には入ってこない。もちろん、いただいた意見については、横浜市内関係部署とは共有している。</p> <p>井上議員：例えば踏切の話はJR等の鉄道事業者などが関わってくる。そういう意味では、いただいた意見というものの取扱い、受け止め方は丁寧にさせていただきたい。</p>
備 考	